

# 対談

# 郷土を語る

袋井市出身の近藤健次さんから、この度、袋井市に文化振興並びに生活環境の向上を目的に、3億円の寄附をいただく運びとなりました。

市では、いただいた寄附金を浅羽会館跡地の公園整備などに活用していきます。近藤健次さん・シゲさん夫妻と原田市長が郷土について語り合った対談の様子を紹介します。

◎企画政策課企画係 ☎44 3105

## いそやとの思い出

**近藤** 私が生まれたのは、幸浦村大野という所で、遠州灘に接するのんびりした田園地帯でした。7人兄弟の4男として生まれましたが、母は私が1歳半の時に亡くなったこともあり、苦労が絶えませんでした。

**原田** 私の生まれは、今の袋井東地区の久努村です。県庁に勤めていたため、しばらく袋井を離れていましたが、袋井市長になって戻ってきました。生まれ育った所の市長になれて、とてもや

りがいを感じています。近藤さんのふるさとである大野や周辺の様子も随分と変わり、驚かれたことでしょう。

**近藤** 多くの企業が進出し、活気があるようですね。最近では、海岸侵食による砂浜の減少が問題となっていると聞きました。

**原田** 海岸侵食とともに防風林の松枯れも大きな問題となっています。合併後の平成17年度からは、グリーンウエーブキャンペーンとして、住民の皆さんや企業と協働で松の植樹事業を行って

います。

**近藤** 私の若いころは、よく防風林の松林で遊んだものでした。昔は、軽便鉄道が通っていて、上京した際にも石津駅から新袋井駅まで出て、東海道本線で品川まで行きました。今でもその時の光景は目に焼き付いています。

**原田** 今は、軽便鉄道も廃線となりましたが、線路跡がウォーキングコースとなっています。特に浅羽地域では整備が進んでいて、市民の皆さんに親しまれています。



近藤健次さん（(株)ビー・エム・エル代表取締役最高顧問）

近藤シゲさん（近藤健次さんの妻）

原田英之（袋井市長）



## 近藤さんの人生哲学

**原田** 近藤さんの自伝「七転八起」<sup>ななころもひらあがり</sup>を拝読しますと、随分ご苦労を重ねられたようです。苦学の末に大学を卒業し、会社を興され、成功されましたが、近藤さんの原動力は何でしょうか。

**近藤** 私の若かったころは、波乱万丈で大変な時代でした。周りもそうでしたが、私の家も貧しかったので、何事も努力する以外の道はありませんでした。

生きていくためにとにかく働き、勉強しました。

**原田** 医療関連の会社を創業されましたが、どのようなきっかけだったのでしょうか。

**近藤** 私は、高等小学校を卒業するとすぐに東京に就職試験を受けに上京しました。その時、身体検査で肺結核と診断され、不採用となりました。当時は、肺結核は、死の病といわれていたため、

### <近藤健次さんプロフィール>

大正15年1月 磐田郡幸浦村大字大野（現・袋井市大野）で出生  
 昭和25年4月 日本製薬(株)へ入社  
 昭和30年7月 (株)相互ブラッドバンク設立  
 代表取締役社長に就任  
 昭和51年7月 (株)相互生物医学研究所(BML)に社名変更  
 代表取締役会長に就任  
 平成元年4月 (株)ビー・エム・エルに社名変更  
 平成13年4月 東京証券取引所市場第一部に株式上場  
 平成19年6月 (株)ビー・エム・エル代表取締役最高顧問に就任

#### 袋井市への功績

平成5年9月 図書充実のため1,000万円の寄附  
 1,204冊の図書を購入し、浅羽図書館の蔵書を充実  
 平成16年10月 図書充実のため1,000万円の寄附  
 4,167冊の図書を購入し、浅羽図書館の蔵書を充実  
 （浅羽図書館では、近藤文庫を設置して市民に貸し出し）  
 平成19年7月 文化振興・生活環境向上のため3億円の寄附

1年ほど自宅療養しました。結果的には、誤診だったので、誤診で人の人生が変わってはいけないという思いがきっかけになって、医療関係の仕事で、人の役に立ちたいと思うようになりました。私も会社も今日があるのは、周りの人たちの協力があつてこそだと感じています。健康に関する仕事を行っていますので、袋井市の理念と通ずるものがありますね。